新城市民病院の取り組み

個々の働き方に応じた支援制度の充実と職場環境の改善で女性医師をサポート。

愛知県東三河北部医療圏にある新城市民病院。一時は救急車の受け入れ制限をかけるほど医師不足に悩まされていました。しかし現在では休日・夜間など救急車受入制限はあるものの救急患者の対応を拡充。元々、医療機関が少ない東三河北部唯一の公設・公営の基幹病院として地域医療を担い、現在では、東三河北部地域の診療所に医師の派遣も行っています。

Voice

出産・育児を機に離職してしまう女性医師が多くいる中、当院では女性医師も育児支援制度を利用して地域医療を支える一員として活躍しています。現場での役割分担が徹底されていますし、事務的なサポートとしても、制度や休み方の提案などを積極的に行っています。

PROFILE

小柳津知之　主任
所属：経営管理部　総務企画課

主な取り組み

①院内保育所
②病児保育
③育児短時間勤務制度
④部分休業制度
⑤当直・日直の免除

PROFILE

新城市民病院
病床数：199床（一般199床）
診療科：総合診療科、専門内科（神経内科、内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内科）、消化器科・外科、血管外科、泌尿器科、耳鼻いんこう科、婦人科、整形外科、皮膚科、脳神経外科、小児科、歯科口腔外科、精神科

〒441-1387　愛知県新城市字北畑32番地1
TEL：0536-22-2171（代）　FAX：0536-22-2850
URL：http://www.hospital.shinshiro.aichi.jp/

DATA（平成27年1月1日現在）

■医師数：61名（うち女性医師16名）
常勤医：24名（うち女性医師6名）
非常勤医：37名（うち女性医師10名）
※非常勤代務医師を含む

■育児休暇取得実績：平成23年度1名

■部分休業制度を利用する医師：3名

Topics 01

診療科の医師を増員し、無理なく働ける環境に変わった。

通常の勤務形態は朝8時30分から17時15分。医師の仕事は、外来や救急患者の対応はもちろん、入院患者に対する指示や書類業務などのデスクワークも多くあります。そのため定時に終わることは難しく、早くて18時まで。遅い時には夜の20時や21時まで勤務している医師もいます。また、当直は1カ月に5回～6回。入院患者が急変した時には、夜間でも対応が必要なことがあります。

以前は総合診療科の医師が不足していましたが、愛知県から自治医科大学を卒業した医師の派遣、また女性医師の復職支援、家庭医療後期研修プログラムの導入により医師数は増加しました。現在、総合診療科では9人中4人の育児中の女性医師がいます。支援できる医師が増えたことで無理なく働くことが可能になりました。

妊娠・出産後は育児休業の他に部分休業制度等を利用できる体制を整えました。夜間の当直や休日の日直、時間外勤務が免除されます。1歳未満の子供がいる場合には授乳時間を取ることもできます。

Topics 02

小児科の協力を得た病児保育で、子どもの急な発熱にも対応。

平成7年に開設した院内保育所は看護師や医療職員が主に利用しており、小さな子どもを持つ女性職員が安心して働き続けられるよう大きな役割を果たしてきました。平成24年からは小児科の医師と看護師の協力のもと病児保育が開設され、体調に不安のある子どもにも対応できるようになりました。生後6カ月未満の子どもについても、院内保育所での保育も可能になっています。子どもの状態によっては、急に仕事を休まなければならない時もあります。その時には他の医師が交代して勤務にあたる体制ができています。

総合診療科には4人、小児科に1人と子育てをしながら働く女性医師が在籍。その女性医師たちが働くことにより、長時間の連続勤務が減り、病院全体が働きやすい環境に変わってきていると思います。

医師不足が招く厳しい勤務環境においても女性医師のキャリアを継続できる。

僻地勤務で、新城市民病院に。

小学校の時に入院していた祖父の姿を見て、漠然と「医師という職業は素敵だな」と思いました。自分も人を助ける職業に就きたい。そう考えたことが医師になるきっかけでした。具体的に考え始めたのは中学生ぐらいのとき。家族で山へ遊びに行くことが多かったので「将来、僻地の診療所で働きたい」とその頃から思っていました。

学生時代に志望していたsubspecialityは循環器内科か消化器内科です。大学4年生の病棟実習の時に「働く環境まで考えた選択をした方がいいよ」と循環器内科の医師に言われました。当時の大学病院には結婚や育児と仕事を両立できている循環器内科の女性医師は1人もいなかったのです。内視鏡にも興味があったことから消化器内科を目指すことになりました。

出身大学の自治医科大学では2年間の初期研修の後に僻地勤務があります。そこで僻地医療拠点病院である新城市民病院へ赴任となりました。東三河北部における救急患者や入院患者の受け入れ、診療所への代診業務などを通して僻地医療を支えています。

PROFILE

横田真美子　医師
所属：総合診療科
出身大学：自治医科大学
医師歴：卒後7年目
初期研修先病院名：名古屋第二赤十字病院

頑張りすぎてしまい、妊娠5カ月目で軽い切迫流産に。

当時は所属する総合診療科の医師が不足していました。そのため、勤務時間を越えた業務や夜間、休日の呼び出しも多い状況でした。それでも通常の勤務形態で妊娠4カ月目まで働いていました。

しかし、ちょうどその時に起きた東日本大震災の支援で当院からも被災地に医師が派遣されることになりました。私も何か役に立ちたいと考えて、派遣された医師の業務を受け持ち、普段以上に頑張ってしまいました。その結果、翌月には軽い切迫流産になりました。入院するほどではありませんでしたが、少し安静にするようにと注意を受けました。

その後は夜間の当直や休日の勤務、時間外勤務は免除されました。入院患者を5人までに制限したり、業務内容も動かなくていいように外来診療を中心にしたり、同じ総合診療科の医師に配慮していただくことができました。また、階段の上り下りの負担を軽減するために、入院患者は同じ階の病棟に入院させるようになりました。ちょっとしたことですが、病院にはいろいろと対応してもらいました。

出産後は体力も低下。技術や知識だけではない復帰を阻んだ不安要素。

規定通りに産前6週、産後8週の産休をいただきました。深刻な医師不足の状況だったため、自分から早い職場復帰を希望し、育休は1カ月のみ取得することにしました。当時は医師になって4年目です。内視鏡を始めて1年以上は経過していましたが、経験値は高くありません。そのため、たった数カ月休むことでも多くの不安を感じていました。家事・育児との両立への不安、知識や手技への不安があったと記憶しています。

知識面での不安に対しては休暇中に自分で勉強することの他に、初診の患者の振り返りを毎日総合診療科の医師で行い、指導を受けやすく、相談しやすい環境を作ることで対応しました。技術面の不安は指導医の先生にしっかりついていただくことで解消しました。意外にも体が検査の仕方などを覚えていたため、そこまで不安を感じることはありませんでした。それでも指導医がついてくれるだけで復帰後のストレスは少なくなります。

予想していなかったことは自分が体調を崩しやすくなったことです。昔から病気はしない方で体力面には自信がありました。しかし子どもが生まれてからは、自分でも信じられないくらいに免疫力が低下していました。子どもに授乳することで体力がかなり落ちてしまうことも初めての経験でした。復帰直後に生まれて初めてインフルエンザにかかり、体調管理は大事だと改めて実感しました。

同じ職場の人と家族からの理解と協力が、女性医師のキャリア継続には必要。

早く帰れるように、育児短時間勤務制度等の体制を整えてもらった。

復帰後は当直勤務や時間外勤務の免除、部分休業制度で1時間短縮の勤務を選択しています。当院では育児短時間勤務等の育児支援制度を利用する医師は私が初めてでした。復帰当初は仕事量が多いことと私の要領が悪いことで時間内に業務を終わらせて帰ることができない状況が続きました。そのため出勤時間を1時間遅くする勤務時間に変更して朝のうちに家事をするようにしました。院内保育所の対応時間は19時までです。19時に間に合わないことが数回あったのを覚えています。

現在は総合診療科の医師が平日夜間の救急医療の対応をしています。育児中の女性医師が17時に業務を終わらせるために16時以降は当直医師が診療にあたる体制にしています。同様に16時まで勤務の女性医師については15時からの診療を当直医師で対応します。勤務終了時間直前に来院された患者の場合、検査の時間、入院手続きなどを考慮すると時間内に業務を終了できなくなるからです。この体制を整えてからは、ほぼ定時に帰ることができるようになりました。制度が存在していても周囲の理解と協力がなければ育児短時間勤務制度等を上手に利用できないことを実感しています。

マイナスではなく＋αと考えること。

子どもの病気や自分の体調不良により急にお休みをいただいて周囲に迷惑ばかりかけていると思ってしまう私に、当時の上司が話してくれた「マイナスではなく＋αと考えること」という言葉があります。

子育てしながらの勤務で当直ができないこと、早く帰らなければならないこと、急なお休みをいただくことについて他の医師よりも十分に働けないと落ち込むことがありました。そんな時に周りに迷惑をかけると思うのではなく、本来はいないはずのところに自分がプラス要員として働いていると捉えようと度々話してくれました。日中だけの勤務でも地域医療に十分貢献していることを自覚させていただきました。

当時はその言葉を聞いて気持ちがとても楽になったものです。私はとても素晴らしい上司とスタッフに恵まれていると思います。もちろん私の仕事を応援し、サポートしてくれる家族にも大変感謝しています。

女性だからと諦めず、子どもを産んでもやりたいことを続けてほしい。

仕事を最優先にした生き方、家庭を大事にした生き方など人それぞれ自分に合ったいろいろな生き方があります。その人によって価値観の違いはありますが、やりたいと思うことであれば諦める必要はないと思います。様々な制度やサポートを上手に利用していけるといいですね。

新城市民病院では平成23年度から家庭医療後期研修プログラムを開始しました。3年間のプログラム中に妊娠、出産もありましたが、無事に家庭医療専門医の資格を取得することができました。今までは自分が先輩医師に指導をしてもらう側でしたが、これからは後輩医師に対して教育や指導をしていく側です。僻地医療に興味がある方、総合診療に興味のある方はぜひ新城市民病院へお越しください。

女性医師の皆様のご活躍を期待しております。